

# 高齢者の人権

年齢だけで「高齢者はこうあるべき…」と、きめつけた考えや、特別扱いをしていませんか？

日本は、他の国に例をみない速さで高齢化が進んでいます。熊本県でも、平成20年に人口の4分の1が65歳以上という状況になりました。

このような背景の中、一人暮らしの高齢者や老夫婦だけの世帯が年々増加し、老後をどのように過ごすかは、本人だけではなく、世話をする家族にとっても大きな問題となっています。

## 高齢者を取り巻く課題

### ○高齢者虐待

虐待をするのは、家族や親族がほとんどだといわれていますが、中には虐待を自覚していない場合もあります。高齢者虐待は、介護する側のストレスが原因だと考えられています。

### ○犯罪被害・消費者被害など

現在マスコミなどで話題になっている振り込め詐欺などの犯罪被害や不動産・預貯金が本人の知らない間に処分される財産管理上の被害などがあります。

### ○認知症に対する誤った理解や偏見

認知症は脳の病気が原因で起こるといわれています。記憶障がいなどさまざまな症状が現れますが「何も分からない」「何もできない」ということではありません。最も不安や苦しみを感じているのは本人であり、本人の尊厳が守られ、安心して生活できる支援が求められています。

### 高齢者の人権を守るための取り組み

1991年の国連総会で、高齢者の人権を保障するため、5つの基本原理が採択されました。

- 5つの基本原理
- 「自立」「参加」「ケア」
- 「自己実現」「尊厳」

それを受けて日本では、高齢者の社会参加や地域社会との共生をめざして、高齢社会対策基本法(1995年)、高齢者虐待防止法(2006年)などが制定され、高齢者が生

涯にわたって地域活動に参加し、周りからのケアを得ながら自己実現に向けて自立した生活ができるよう、取り組みが進められています。

### わたしたちにできること

高齢であっても、ライフスタイルや価値観はさまざまです。

「年寄りなんだから」「年寄りのくせに」というきめつけは、差別につながります。

高齢者に対するきめつけた考え方や接し方をせずに、高齢者自身の意欲や能力を尊重しましょう。

また、加齢に伴う衰えは、誰もが避けて通ることはできません。それにもかかわらず、こうした高齢者を疎外したり、蔑視したりしていませんか？

誰もが最後まで人としての尊厳を全うしたいと願っています。高齢者一人一人の生き方や考え方が尊重される家庭、地域、職場などを増やしていきたいものです。

熊本県人権同和政策課

「人権研修テキストV」参照

益城町教育委員会

## ふるさとの地名漫歩

## 歴史の変遷と地名

350

### 飯田山常楽寺⑩

ここには蔓草が繁るように顕密(注)、顕教と密教：仏教の2系統)を学ぶ秀才が集まり、部屋に住む学生は300余人を数えた。洛陽(京都)の泉涌寺(皇室の菩提所：御寺)開基の俊仍国師はまたこの山(注、飯田山)の真俊の弟子であった。今、年数を数えるると敏達帝癸卯より今ここ丁卯(寛永4年)に至るまでこの常楽寺の歴史は1040余歳を経た。ここ(常楽寺)は国中で数少ない尊び敬うべき、他と異なる長い歴史の清らかな霊地である。しかし四夷(注、戦国各地の群雄)の干戈(戦乱)は蜂が群がるように起こり、飽くことを知らない虎や山犬のような賊が横行し神社仏閣は残らず破壊され、あるいは兵火のため経典や神社の宝物は全て灰になり、信者から寄付された田園は国に税金として奪われた。

き降りしきる雨のため寺の柱は腐り、山頂は大雨に荒れ谷川は洪水が満ちあふれた(注、戦乱のため常楽寺も飯田山も荒廃したことを述べている)。降り注ぐ雨で線香は湿り、御仏飯を炊く朝のかまどの火も消えてしまった。山にかかる雲霧のため燈火はたちまち消え夕月の影も無い。そもそも御本尊の千手観世音はこの世に御縁があり、このような乱世に時に応じて出現し鬼神の災いを除き鳥獣の狂い走るような憂いを救う仏様であり、また、人々を襲う7つの苦難、つまり、火責めの難、羅刹(鬼)の難、権力による死刑の難、権力による捕縛の難、猛獣の難、毒殺の難、雷火の難も観世音を必死に念ずれば、その災難から解き放つてくださる仏様である。(以下次号)

益城町文化財を訪ねる会  
会長 松野國策



十一面千手観音像